

理解を深めて

小竹町立小竹中学校3年 青沼 和歩

小さい頃から、当たり前のように利用している図書館。買うと高い本だが借りるとタダだ。小さい頃から利用していたとはいえ、小学校低学年ぐらいまでは、本を読むのが好きではなかった。そんな私だが、読みたい本を見つけたことで、読書が好きになり、また図書館を利用するようになった。今は勉強で忙しいが、長期休暇の時は、母と何冊読めるか競争している。

今でこそ、誰もが無料で利用できる図書館だが、有料だった時代もある。戦前の公共図書館は、一八九九年の図書館令で閲覧料金を取ることが認められていた。一部無料で解放されていたらしいが、戦前のまだ裕福ではない時代、有料での閲覧は、本を読みたい子供達にとっては高嶺の花だっただろう。一九五〇年に決められた図書館法のお陰で、誰もが完全無料で利用できるようになった。税金のお陰で、本を買う余裕のない人達でも本を楽しむことができるようになった。

私にとって身近な存在の図書館。蔵書が税金によって購入されていることも、成長とともにいつの間にか知っていた。普段は借りて帰るだけだが、利用者が少ない時には図書館の雰囲気を楽しむため、その場で読むこともある。このような素晴らしい空間が、税金で運営されているのだ。

最初は、本の購入費だけに税金を使っていると考えていた。だが調べてみると、図書館を維持するには、人件費や水道光熱費等にもお金がかかることがわかった。沢山の税金が使われることで、図書館が運営されると知り、税金のイメージが良い方へ変わってきた。

今までは税金という言葉に良いイメージがなかった。平等とはいえ、子供から消費税を取ることに不満があったからだ。先日、学校で行われた租税教室で、税金についてのアニメを見た。ゴミの収集や救急車を呼ぶことが、税金のお陰で成り立っている事実を改めて知ることができ、更に税金へのイメージが変わった。当たり前のようにあるこの生活が、税金を納めることで成り立っている。この生活を守るため、税金の仕組みはとても大切だと思うようになった。

世の中には、まだ税金を納めることに対し不満に思う人も多いだろう。税金の無駄遣いじゃないかと思うことも、多々あるのは事実だ。しかし、私のように税金の使い道がわかれば、不満が解消される人もきっといるだろう。そして、租税教室のような税金の使い道を知る機会を増やせば、もっと沢山の人が気持ちよく税金を納めてもらえるはずだ。私も税金をもっと知ることによってさらに理解を深めていきたい。

今はまだ、消費税を支払うことしかできない。だが、将来は様々な税金を納めることで、社会を支える大人になりたい。